

浜岡原発止めたら、 電気は足りなくなるの？

(^_^)

心配ご無用！

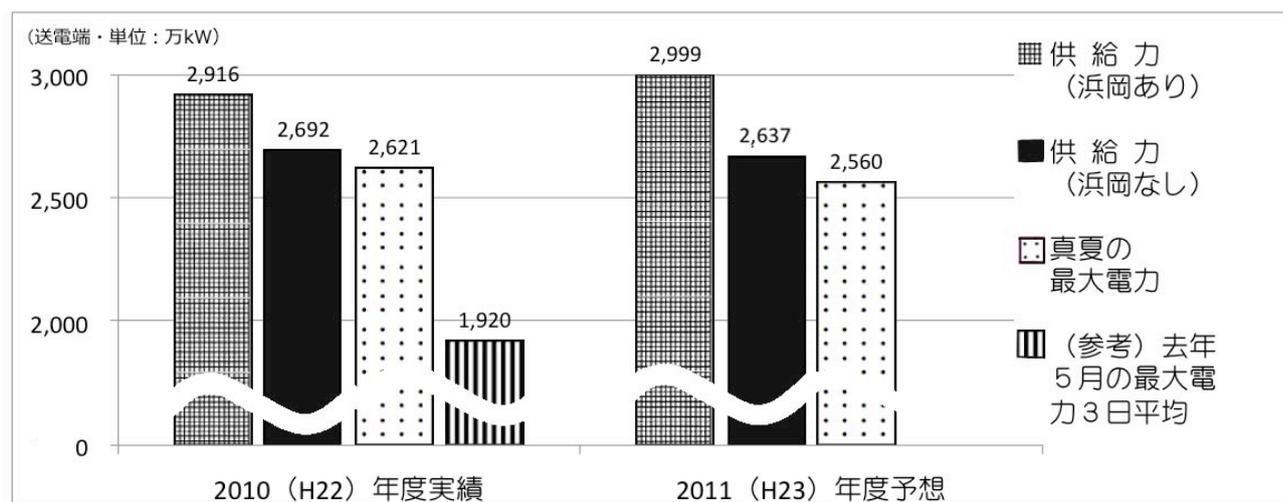
電気は余る程あります。

電気の消費量がもっとも多いのは、真夏のウィークデイの昼間、ほんの数時間。
その時間帯さえ、浜岡原発が無くても十分電気はまかなえます。

中部電力自身がそれを公表しています。

真夏や昼間の時間帯でなければ、なおさらもっとたくさん余っているのです。

中部電力の真夏の電力供給力



(注：浜岡原発の設備容量は発電端で計算 (3, 4, 5号機合計 361.7万kW))

<データの出典>

今年3月23日に中部電力が発表した「『平成23年度電力供給計画』の策定について」

http://www.chuden.co.jp/corporate/publicity/pub_release/press/3152622_6926.html

の「添付資料1：平成23年度「電力供給計画」概要の【表3】最大電力需給計画（送電端）」

http://www.chuden.co.jp/corporate/publicity/pub_release/press/___icsFiles/afieldfile/2011/03/23/032303.pdf

(詳しくは裏面をみてね)

ほらね 添付資料 1：平成 23 年度「電力供給計画」概要の [表 3] 最大電力需給計画（送電端）」より

(単位：万 kW)

項目	年度	22年度 (実績)	23年度
最大電力 (A)		2,621	2,560
供給力 (B)		2,916 *	2,999
供給予備力 (B-A)		295 **	439***
同上率 (B-A) / A		11.2%	17.1%

* 猛暑だった去年の真夏に稼働していたのは浜岡 3 号機と 4 号機だけ。その供給力は 223.7 万 kW (発電端)

** 浜岡 3・4 号機をもし止めていても、供給予備力は 295 万 kW - 223.7 万 kW = **71.3 万 kW 余っていました。** (浜岡原発の送電端での発電量は 5% 程度減るので、実際は 82 万 kW 以上余っていたこととなります。)

*** 今年の供給予備力は 439 万 kW。浜岡原発を全部止めて 361.7 万 kW 分減らしても、**77.3 万 kW 以上余ると中部電力自身が予想しています。**

★ ちなみに、中部電力が自分の会社で保有する発電設備の容量は、
原子力発電所を除いても 2,900 万 kW (発電端) 以上あります。

うちわけ ●一般水力発電所：185.89 万 kW ●揚水発電所 (純揚水・混合揚水)：336.00 万 kW
●石炭火力発電所：410.00 万 kW ●石油火力発電所：1,471.34 万 kW ●LNG 火力発電所：509.04 万 kW
●御前崎風力発電：2.20 万 kW ●メガソーラーいいだ：0.10 万 kW

実際は、他社 (Jパワーなど) からの受電契約があるため、日本原電の敦賀原発 1・2 号機分の約 53 万 kW 分を除いても、原子力発電以外の設備容量が 3,100 万 kW (発電端) 以上もあるのです。

(揚水発電所の揚水用動力は、深夜電力を使うのでピーク時の供給力には影響ありません。深夜電力への対応は、原発だけでは足りないため、既に今でも石炭火力発電所等を使っています。浜岡を止めても、深夜電力需要には一般水力・火力発電所だけで十分対応できます。)

★ 東京電力・東北電力への余剰電力の融通は、周波数を変換するための施設の能力が 100 万 kW 分しかないため、これを超えて両会社を助けることはできません。
また、この 100 万 kW は、関西電力や北陸電力など西日本の電力会社で分担します。

だから、世界一危険な浜岡原発を今すぐ止めても まったく電気の心配はいらないのね。

では、他の全国の原子力発電所は今すぐ止められるでしょうか。
じつは、原発以外の発電所が現在発電している電力量は、1990 年頃 (バブル景気の真っ最中) に原発も含めて発電していた総電力量とだいたい同じです。
つまり、90 年頃からたった二十年で、今の原発の発電量の分だけ、
私たちは電力の消費量を増やしてしまったのです。
だから、90 年頃の生活水準にすれば、今すぐ原発を止めることができます。
「原発が無ければ、江戸時代の生活に逆戻り」とか「原始時代と同じになる」
なんて言っていたら、ちょっと恥ずかしいかもしれませんよ。

でも、節電はとてまたいせつです。

**今まで私たちは、危険を遠くの人に押しつけて
電気を使いすぎてきたのですから。**